

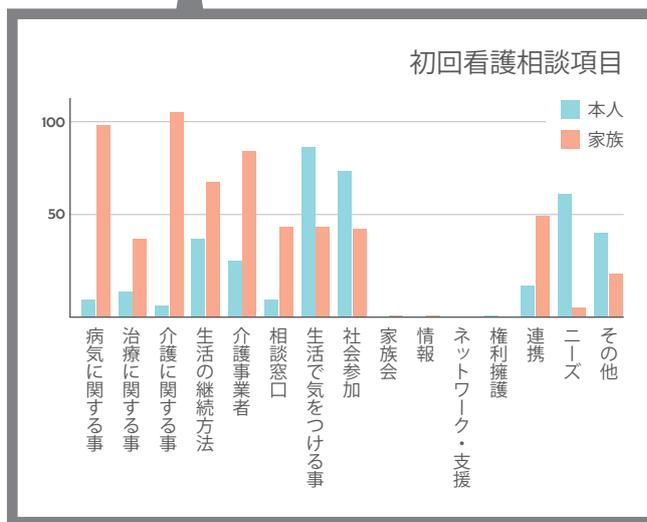
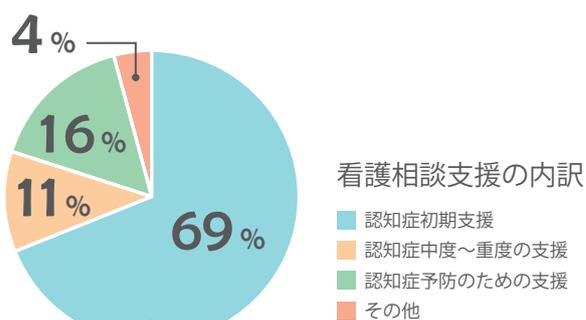
開設から3年、大きな役割を担う『看護相談』

京都認知症総合センタークリニックが開設し3年目をスタートいたしました。『早期受診・早期診断』が重要だと感じるとともに、『早期介入』がいかに大切かということをひしひしと感じています。

特にサービス等につながない初期の認知症患者さんにおいては切れ目のない医療・福祉・介護サービスの提供を行うための初動といえます。その中でも大きな役割を担っているのは看護相談です。

当クリニックでは医師の診断後、必要に応じて本人と家族に分かれて看護師が「看護相談」としてそれぞれの思い、気持ちをお聞きし、その方にあった支援を行っています。

看護相談支援の中で右図のとおり最も多かった認知症初期支援の内容では、ご本人は『今の生活を維持していくためにどうしたらよいか』、ご家族はご本人が変化していくところを目の当たりにし今後の生活がどうなっていくのかを心配に思い、『病気や介護に関すること』がとても多く、ご本人と家族の考え方に差がみられることがありました。



ご本人・ご家族それぞれの思いをお聞きすることで受容段階の差や気持ちの相違があります。その差を埋めるような関わり、またご本人だけでなく、ご家族との全体像に重点を置く、ご本人、ご家族全員が同じ足並みを保つことができるように、空白の期間を埋める役割が重要と考えています。

まずはお気軽にご相談ください！

「カフェほうおう」は、3年目を迎えるにあたり、本人の声を起点としたプログラムやサークル活動、そしてピアサポート活動のさらなる充実をはかり、皆さまにより親しんで頂けるよう、常設型そして共生型の居場所としての充実を目指して行きたいと思っております。

そもそも認知症カフェとは？

「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」と定義されています。2014年頃に全国で約600箇所であったものが、2019年末時点では約7,000箇所の認知症カフェが運営されています。京都府内においても約150箇所で運営されていますが、その中でも「カフェほうおう」は、日曜祝日以外は営業している常設型であり、全国的にも非常に珍しい認知症カフェです。

誰が行っても
良いの？

一人で行っても
良いのかな？

他の病院を受診
している場合は利
用できないのか？

いつ行っても
良いの？

カフェほうおうについてよくある質問！

地域住民の方やケアマネジャーさんからのお問合せを良くいただきます。様々な交流や出会いがあったり、本人同士や家族同士、そして専門職も交えて相談したり、いつでも立ち寄れて、誰もが利用できることが常設型認知症カフェである「カフェほうおう」の特徴です。それら含めて、実際にカフェをご利用されている方からの「声」を頂いてみました。

Aさん（女性・認知症ご本人）

週に2回ほど通院など予定の無い日は、夫の運転で連れてきてもらって二人で2～3時間遊ばせてもらっています。ここに来ると、私ひとりじゃないという安心感がある。これからどうなっていくのか、何もできなくなったらどうしようと先のことを考えて不安になりますが、同じような不安や悩みを持っている人と話すとホッとします。私たち夫婦にとって「居場所」のひとつになっています。

Bさん（女性・ご家族）

夫は宇治市内の別の病院で診察してもらっていますが、市の認知症事業で知り合った方と話しているうちに、ここでのイベントなどを教えてもらいました。認知症であることを受け入れつつある夫ですが、そばで見ていると悩んでいるように感じている時があります。そんな時はここに連れてきます。安心して自分のことが話せるようで、すごく気が楽になるようです。

自由な活動を応援！
男女問わずたくさん
ご参加いただいています！

